



耐久高等学校同窓会報

耐久



県庁内に立つ梧陵翁像

全国・近畿大会出場クラブ懸垂幕

全国大会出場 バドミントン部

剣道部

囲碁将棋部

マンドリン部

近畿大会出場 陸上競技部

水上競技部

ソフトテニス部

NO. 48

着任のぶあいつ

定時制教頭

中 啓 紀



4月の人事異動により、本校全日制から定時制教頭に着任しました。全日制での11年間は教諭として生徒と関わって参りましたが、今年度は立場が変わり戸惑うことも少なくありません。また、定時制勤務が初めてということもあり、生活のリズム作りに苦戦しながらも、本校教育に全力を注ぎたいと考えております。

さて、本校定時制ですが、現在15名が学んでおります。4月当初は欠席が目立つ生徒も、先生方のきめ細やかな指導で徐々に登校できるようになり、学校にも活気が出てきました。1学期に行われた新入生歓迎会等の活動につきましては、

新型コロナウイルス感染症の影響で内容を変更したのもあります。2学期以降予定通りの活動ができるか不透明ですが、様々な行事を企画し、生徒の知見を広め、仲間作りやコミュニケーション能力の育成にと考えております。

また今年度は、延期されていた東京オリンピックが開催された年でもあります。せっかくの機会ですので、夏休みに登校日として日本代表を応援することといたしました。制約のある中での観戦ですが、57年ぶりの東京オリンピックを生徒たちと共に味わうことができました。

最後になりましたが、同窓会の皆様方、本校定時制教育へのご理解とご協力、誠にありがとうございます。今後とも、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。



令和3年度

「本部及び

有田耐久会総会」

中止のお知らせ

残暑お見舞い申し上げます。

同窓会会員の皆様には、ご健勝にてお過ごしのことと存じます。平素は同窓会活動に、ご支援ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、本年は「本部及び有田耐久会総会」開催の年であります。7月上旬に同窓会役員会で総会の持ち方について協議をしました。その中で、総会及び親睦・交流を深める懇親会の開催は難しい状況という判断に至りました。皆様の安全・安心を第一に考慮して、今年度の「総会」の中止を決定いたしました。皆様とお会いできるのを楽しみにしていましたが、誠に残念でありません。

暑さ厳しき折、新型コロナウイルス感染症予防や熱中症対策にご留意くださり、今後ともよろしくお願い申し上げます。

同窓会長 大西義弘

(高校16期)

「ふるさと和歌山応援寄附」を募集！ 和歌山県立耐久高校に

昨年の4月から、長年にわたる私たちの要望が実現し、県下の高等学校に「ふるさと納税」制度が適用されることになりました。折しも来年は創立170周年を迎えます。ふるって母校の教育環境充実のために応援をお願いします。

「ふるさと納税」は一定限度額までは「寄附した額から2000円を差し引いた額」が税金から戻ります。振込用紙は学校事務室に用意しています。

耐久高校に関係する皆様からの寄附による応援をお待ちしています。

詳しくは学校事務室までお問い合わせ下さい。

お問い合わせは耐久高校 (Tel.0737-62-4148 Fax.0737-62-2251) まで。



支部連絡先	和歌山耐久会	関西耐久会	関東耐久会	有田耐久会
	会長 西 博 義 〒640-8321 和歌山市岩橋 1690-47 Tel 073-475-2677	会長 地 引 民 子 幹事長 宮 崎 裕 子 〒563-0017 大阪府池田市伏尾台 3-8-1 Tel 072-753-1219	会長 林 紀 男 〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-3-12-1002 株式会社 オフィス ココ 桜バンケット Tel 03-3359-9520	会長 和 泉 保 廣 〒643-0004 有田郡湯浅町湯浅 1985 耐久高等学校・同窓会事務局 Tel 0737-62-4148

同窓会のホームページ URL <http://taikyukai.net/>

令和3年度 全国大会出場クラブ激励金 贈呈

令和3年6月30日(水) 11時45分

全国大会出場クラブの代表者に、大西同窓会長と大西校長より、激励金とともに健闘を祈念するエールが贈られた。各代表者は大会に臨むそれぞれの決意を力強く述べた。

※かつこ内は開催地

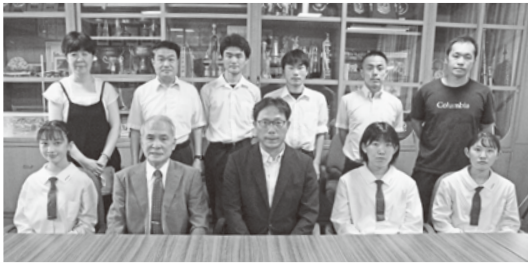
○バドミントン 女子団体
全国高校総体 男子・シングルス
全国高校総体 女子・シングルス・ダブルス
全国高校総体 男子1名、女子7名(富山県)

○剣道 女子個人(40年ぶり) 1名
全国高校総体 (石川県)

○囲碁将棋 3名(東京都)
全国高校囲碁選手権大会 1名(和歌山県)

○マンドリン 12名(大阪府)
全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール 12名(和歌山県)

全国高校総合文化祭



バドミントン部

出場者代表 2年4組 尾原あかり

私たちバドミントン部はみんな明るく活気のあふれるチームです。主にバターン練習が多く、長いラリーをし、更にショットの精度を上げることを意識しながら取り組んでいます。バドミントン経験者ばかりではないですが、先輩・後輩関係なく自分たちで教え合ったりしています。教え合うことにより、教える側も自分の打ち方を見直す良いきっかけとなり、お互いにレベルアップしていきます。更に、コミュニケーションをとることでチームの団結力も高められます。

コロナ禍の中でたくさんの大会が中止になりました。遠征もなかなか行けず、高校入学から初めての全国大会で緊張や不安もたくさんあります。けれど今の自分を試す良い機会です。毎日支えてくれている家族や指導して下さい先生方への感謝の気持ちを忘れずブレること。そして、去年インターハイが中止になり悔しい思いをした先輩方の方分まで諦めず、耐久高校生として、和歌山代表として全力で戦ってきます。

剣道部

2年5組 大上 夏子

まずは、このコロナ禍の中で大会が開かれること、そしてこれまでたくさんのご指導をしてくださった先生方や、共に切磋琢磨してきたチームメイトたちへの感謝の気持ちを忘れずに、インターハイという大きな舞台へ挑みたいと思います。

普段の稽古では、素振りから1本1本目の前に相手がいることをイメージして振ったり、竹刀をしっかりと振れるように切り返しを多めにしたりしています。また、試合で使う技の稽古や、先生にかかっていく地稽古などが主な内容です。

私はインターハイに出場してそこで勝ち上がることを目標にこの耐久高校に入学しました。しかし、入学早々自粛期間となり今までと同じように

剣道ができず、遠征にも行けない中で、自分たちができることは何かを考え、チームメイトでありライバルでもある仲間達と一丸となって高めあってきました。そんな仲間達や先生方、保護者の方々、そしていつも支えてくれて一番近くで応援してくれている両親がいたからこそ掴み取ったインターハイで、勝つても負けても悔いの残らないよう、今自分の持てる力を十分に発揮し、挑戦者として全力で楽しんできたいと思います。

囲碁将棋部

部長 3年6組 田中 歩

囲碁将棋部では、全員が囲碁と将棋の両方を練習するのではなく、各々が得意とする方を主に取り組んでいます。半数以上の人が将棋の方に組み込んでいて、囲碁に取り組んでいる人はあまりいません。また両方ができる人はごくわずかです。

将棋は、人数が多いのに加えて小中学校からの経験者も何人かいるので様々な強さの人たちが日々対局を重ね、実力を競い合っています。また、ただ対局して終わるのではなく、対局後は必ず検討を行い、互いの手に対して意見を出し合っている。一つの対局から得られる学びをとても大切にしています。ほかにも強い人同士の対局を見て、先の手を読む力を鍛えたりもしています。

囲碁は、人数が少ないこともあっていろんな人との対局がありませんので、各自で本を読んだり問題を解くといった練習が多くなります。それでもやはり実際に対局することが力をつけることに繋がるので、棋力が同じ人同士でも対局練習は欠かしません。その際、経験豊富な有段者が初級者同士の対局を見て悪手があればその場で即座に指摘して、その手についての説明をするという練習をしています。

部活では、大会で勝つために強くすることを目標としています。何よりも楽しく活動することを目指しています。「楽しい」ことは、一生懸命取り組むための原動力となるからです。昨年度から新型コロナウイルス感染症の影響で、以前のような活動は出来ていません。それでも部活のメン

バーの囲碁・将棋に対する熱意は以前とは変わっていません。

活動の結果として、囲碁は、和歌山県大会で個人戦、団体戦ともに優勝し、全国高校囲碁選手権大会に出場します。私たちの棋力が全国のレベルにどれだけ通用するかを試すことができる絶好の機会です。

マンドリン部

3年6組 池永 実優

昨年の全国大会の中止が決まってからの一年間、今年の全国大会で優秀賞を取ることを目標に練習を続けてきました。新型コロナウイルスの影響で本来行われるはずだった演奏会やイベントが無くなり、自分たちの努力の成果を見せられる機会がなく、正直練習がつらく感じる時期もありました。いつもそばに一緒に頑張る部員の仲間がいてくれたから、どれだけしんどくても、上手く弾けない日も続いても諦めることなく今まで練習を続けることができました。

部員の全員が初心者で初めは全く弾くことができませんでしたが、今では何曲も弾けるまでになり、楽器を弾いて曲を演奏することが本当に楽しいです。3年間支えて下さった先生方に、今までずっと努力し続けてくれた部員たちに、そしてその部員たちと一緒に演奏できたことに感謝を伝えるために、今までで一番の演奏をしたいです。

全国大会まで1ヶ月を切ったからは、今までにないくらい大変ではありますが、本番が近づいてつれてより練習に熱が入り、目標に向けて全員が一生懸命に練習に励んでいます。優秀賞を取ることに向けて、朝練やミーティング、合奏も数えきれないほど行い、自分たちが出来ることに全力を尽くしてきました。全国大会が無観客なのが残念ですが、こうした形でも開催できることに感謝したいです。最後のステージ、最後の自分たちの努力を発揮できる機会として、仲間を信じ、演奏することを楽しみながら悔いの残らないように、精一杯やりきりたいと思います。

県立高等学校の在り方(再編整備)について その2

令和2年10月7日、有田川町きびドームで高校再編についての県教育委員会主催の説明会が開催され、その後同窓会として県教育委員会の担当者を招き、11月26日に本校で説明会を開催しました。(その時の内容、質問、要望等につきましては、前回の会報第47号で掲載しています。)

その後、県教育委員会は年内に予定していた再生プログラム(案)の公表を見直し、再編整備の考え方を整理し、説明や意見を聞く機会がさらに必要であるとし、説明・懇談会を県内15か所で開催しました。

令和3年2月13日(土)には「湯浅えき蔵」で行われ、地元の教職員、同窓会、PTA、地元住民など約100名が参加しました。

新しい骨子案では、
・今ある学校を可能な限り存続させる。
・各地域に中核的な学校をおき、その周辺に地域の特性に合った学校を配置する。

・普通科や職業系専門学科、総合学科など、いくつかのカテゴリーに分けて再編する。

などの説明がされました。

さらに、「有田地方での中学校は、有田郡に整備し、耐久高等学校と有田中央高等学校を母体に中核高校化していく。普通科と総合学科のシステムを併せもつ有田郡市を代表する学校として整備できないか考えている。校名を一つにし、両校舎を使い分け、生徒数の減少に合わせて校舎も統合してい

く。箕島高等学校は、地域特性校として充実させ存続が必要である。」という一つのプランが紹介されました。

参加者からは、

- ・3校を残し、発展させてもらいたい。
- ・地元の人が地元で学びたいと思う魅力ある学校にしてほしい。
- ・全県一区制度の見直しを。
- ・地方教育の充実を。
- ・少人数学級の話を詰めるべき。
- ・耐久高校の存続を切に願う。

・再案は妥当だと思う。今回の再編で住民が教育について考えるきっかけになった。大変な時代、慎重に進めてもらいたい。

など、多くの意見が出され、関心の高さが伺えました。

その後、県教育委員会は、4月13日、「県立高校の在り方」などについて県民から意見募集を始めました。全県民が対象で、郵便やメールでの提出のほか、対面で意見を表明する場合も設けました。

県教育委員会は、4月21日から4月27日まで、会場での意見表明を県下の5会場で開催する予定でしたが、コロナ禍のため全て中止になり現在に至っています。

今後同窓会は、県教育委員会の動向を見守りながら、母校の存続とさらなる発展を願い、要望していく所存です。会員の皆様のご支援ご協力をよろしく願います。

同窓会長 大西義弘(高16期)

稲むらの火の館

『気象庁長官表彰』を受賞

安政南海地震(1854年)の際、稲むらに火をつけ、人々を高台へと避難させた濱口梧陵翁の偉業を伝える「稲むらの火の館」(広川町)は、6月1日『第146回 気象記念日 気象庁長官表彰』を受賞されました。

その伝達式が6月10日に「稲むらの火の館」で行われ、和歌山気象台・石井嘉司台長から崎山光一館長(高20期)に表彰状が授与されました。

気象庁は、明治8年6月1日に前身となる東京気象台が観測を開始したこの日を「気象記念日」として、気象業務に功績のあつた機関や団体を表彰しています。

「稲むらの火の館」は2007年4月に開館し、これまで40万人以上が訪れています。濱口梧陵翁の遺徳を受け継ぐため、主に小中学生に向けて地震・津波に関する知識の啓発を行ってきました。

当日、石井台長は、「南海トラフ地震に遭遇するのは、おそらく今の子ども達だと思うので、日頃からの普及啓発が大切です」と挨拶されました。

崎山館長は、「去年は大阪管区気象台長表彰、今年は気象庁長官表彰を受賞し身に余る光栄です。表彰を活動の糧にして、今後も普及・啓発に取り組みたい。早めの避難を訴え続けていきたい」と意気込みを述べられました。館内には、濱口梧陵の功績を伝える「濱口梧陵記念館」

「津波防災教育センター」、稲むらの火の3Dシアターや津波発生のメカニズムを解析するシュミレーション、防災体験室などを備えています。

同館を中心に、館長や地元の語り部、小学生などを交え、活発な啓発が行われています。

同窓会長 大西義弘(高16期)



橘 家
Wedding Hall
TACHIBANA
ご予約は
TEL 0737-88-7005
FAX 0737-88-7775
URL <http://www.tatibanaya.jp>
〒649-0434 有田市宮原町新町17

医療法人 若葉会
ながたに歯科
長谷晋作(高33期)
TEL:0737-63-4182
湯浅町湯浅1456-8
休診日:木、土午後・日・祝日

「おいしさの仕上げは、やさしさのトッピング」
カフェ&ベーカリー オリーブ
有田川町熊井759-1
TEL:0737-52-8565
営業時間/9:00~18:00
(カフェ/9:00~18:00)
定休日/日・月・祝
HP <http://www.wasaren.org/olive/>

金山寺みそ 醸造元
か 垣内みそ店
垣内欣久(高15期)
本店 湯浅町別所 342-1
TEL (0737) 63-5855
和歌山店 和歌山市里 45-1
TEL (073) 462-7003

同窓の情報交換のスペースとして会報を活かしましょう。

同窓会寄贈図書について

令和二年六月、濱口梧陵翁生誕二百年の年、百二十件の耐久、梧陵、そして稲むらの火関連の書籍をいただきました。その時に同窓生の西博義先生は、「梧陵といえば資料が一番そろっているのは耐久高校、というようにしたいんだよ」とおっしゃってくださいました。そして今年、令和三年にも、西先生が集めてくださった多くの資料を同窓会より寄贈していただきました。その中で私が興味を持った資料が二点あります。

はじめは、『私立耐久学舎一覽』（明治四十年十月刊）です。内容は生徒手帳のようなものに加えて「耐久学舎三一会規則」、寄宿舎規則なども掲載されたもので、刊行当時の舎長は宝山良雄先生です。見返しには「真・美・健」の校訓があります。そして、一ページめくったところに一編の漢詩が書かれています。

山海秀霊地

流風五十年

吾徒能耐久

徳業紹前賢

この詩の意味は、「山と海の素晴らしいこの地で五十年の歳月が流れた、われらは耐久に学び、立派な行いをもって先輩のあとを継いでいく」といったものです。誰が作成し、どういった経緯でこの詩がここに載ったかは何も説明されていませんが、そのころの耐久に集った若者たちの意気込みをひしひしと感じます。同じく寄贈していただいた明治三十八年版には掲載されていないので、この間に生徒のどなたかが詩を詠み、一覽に載ることになったのだと推察できます。毎朝教職員と学生が一堂に会して校歌を歌ったり、毎月一回討論会を行ったり、とても熱心に勉学に励んだことが伝わってきます。

もうひとつの資料は毎日新聞和歌山版で連載されていた「高校風土記」の耐久の回です。これは県立

図書館の新聞をコピーした資料で、昭和五十二年三月から全五十二回あります。創立から昭和後期までの耐久を描いたドキュメンタリーで、有田高等女学校の始まりや、新制耐久高等学校になったあたりも細かく書かれています。毎回最後に卒業生の方のインタビューがあり、楽しかった学生時代の思い出が述べられています。耐久中学を中退した画家の長谷川利行氏のその理由が失恋であったとか、相撲部の大躍進、職員室で津波は怖い、と話したすぐ後に南海地震が起こって海沿いにあった校舎が津波に襲われ、何もかもが流されてしまった話とか、ちょっとした話題が長い歴史の合間合間に書かれ、沿革史では知ることのできないエピソードが盛りだくさんです。

どちらも、西先生が精力的に耐久高校に関する資料を集めてくださったおかげで知ることができたもので、存在を知らなければこうやって紹介することもできず、埋もれたままになり、貴重な資料が消滅する可能性もありました。西先生のその熱意には感謝してもしきれず、ひたすら頭を垂れるばかりです。いただいた梧陵、稲むらの火、耐久の資料は耐久高校図書館と耐久志学館に保管しております。

耐久高校図書館司書 大藤佐和（高43期）



耐久高校同窓会寄贈濱口梧陵関係資料一覧

	著 書 名	編 著 者	出 版 社
101	稲むらの火 英米文学名著叢書・第十七篇	ラフカディオ・ハーン 田中準 訳	廣文堂
102	日本郵便創業史 一飛脚から郵便へー	藪内吉彦	雄山閣出版
103	郵便の歴史 飛脚から郵政民営化までの歩みを語る	井上卓朗 星名定雄	鳴美
104	「百世の安堵」津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産	崎山光一	広川町日本遺産推進協議会
105	南海の義人 濱口儀兵衛	諏訪彰	キング
106	郷土学習教材用映画『稲むらの火』濱口梧陵の偉業 解説補充指導資料集	和歌山県教育委員会	和歌山県教育委員会
107	和歌山県立文書館だより 第58号 令和2年9月	和歌山県立文書館	和歌山県立文書館
108	稲むらの火 濱口梧陵小傳より	里見浩太郎	日本クラウン
109	創立九十周年記念 第四十號	河内貞次郎 編集	和歌山県立耐久中學校
110	私立耐久学舎一覽 明治三十八年十一月		
111	私立耐久学舎一覽 明治四十年十月		私立耐久学舎
112	耐久学舎規則書		耐久学舎
113	耐久 和歌山縣立耐久中學校三一會会報 第三十號	野田宏	和歌山縣立耐久中學校校友會
114	耐久 御大典記念號 和歌山縣立耐久中學校三一會會報 第三十一號	野田宏	和歌山縣立耐久中學校
115	耐久 第三十二號 昭和七年二月 和歌山縣立耐久中學校三一會	西岡亮	和歌山縣立耐久中學校校友會
116	諸国賢人列伝 地域に人と歴史あり	童門冬二	ぎょうせい
117	語り継ぎたい美しい日本人の物語	占部賢志	致知出版社
118	日本と世界の気象 文明は北進する	荒川秀俊	東都書房
119	和歌山の先人たち	和歌山県民生部青少年婦人課	和歌山県
120	紀州人 第拾巻第百八號	阪本恭雄	紀州人社
121	和魂和才 世界を超えた江戸の偉人たち	童門冬二	PHP研究所
122	The Sercrets of Inamura-no-Hi November 5th is "World Tsunami Awareness Day"	Ikutaka Yamaguchi Manga	Learning・Solution Department Gakken Plus
123	Biography of Hamaguchi Goryo	Sugimura Kotaro	
124	「濱口梧陵学のすすめ」～濱口梧陵生誕200年記念～	稲むらの火の館	稲むらの火の館
125	毎日新聞「高校風土記」332～383	毎日新聞	

晩学のすすめ

関東耐久会 小槇達男(高16期)

70歳でリタイアした時、何をしようか考えた。趣味のゴルフは、その名も晩成会というサークルに入っていたので、その仲間と切磋琢磨しよう。ボランティアとしては、お世話になった大学の環境美化活動に参加しようと思った。残りの時間(これがいっぱいある)はどうするか。大学時代には、ドイツ語ゼミでゲーテ「ファウスト」に取り組んだ。そう「ファウスト」をもう一度読んでみよう! 50年ぶりに古いテキストを取り出し、文法を復習してから、読み始めた。10ヶ月で読み終わったが、途中でゲーテ街道に沿ったドイツ旅行に参加し、ワイマールのゲーテ住宅や静かな川辺の別荘を見て、思いも深まった。そして気が付いたのは、リタイア生活は勉強に持つてこいの環境だということ。何しろ時間は幾らでもあるし、納期を気にする必要がない! ドイツ語そのものをもう一度勉強してみようと思ひ、東京青山のゲーテ・インスティテュートに入學した。週2日各4時限の授業は結構厳しかった。



関西耐久会との出逢い

関西耐久会幹事長 宮崎裕子(高31期)

初めて関西耐久会に参加したのは平成25年(2013)です。その年の夏、ネットでも耐久高校のホームページを閲覧していたら関西耐久会の事が書かれており、大阪で総会を開催してるのを知りました。早速、恩師・バレエ部顧問の柏原先生に相談しました。即、当時の横山亭会長(14期)に連絡を取って頂き参加となりました。翌年は川本陽子さん(18期)から受け付けのお手伝いと、講演者・成戸昌信さん(18期)に花束を渡してほしいとの事で、引き受けしました。その又翌年には鈴木祥生さん(現・副会長)と一緒に司会の依頼。なんだか、ドンドン関西耐久会に入り込んでいつて様な心持ちでした。平成29年(2017)には、地引民子さん(17期)が会長就任となり、幹事長交代の依頼がありました。それは重すぎと考え、一旦お断りしましたが、役員一同からのご期待に添える様に頑張ろうと思ひ、幹事長として現在にいたっています。

私は、関西耐久会に参加した頃からフェイスブックを始めました。現在は幹事長・広報担当として、関西耐久会関係の事を発信しています。役員会の様子や総会開催に至るまでの経緯、総会の様子を投稿していますが、個人的な事が多いのですが、和歌山の事は神戸や

初めて関西耐久会に参加したのは平成25年(2013)です。その年の夏、ネットでも耐久高校のホームページを閲覧していたら関西耐久会の事が書かれており、大阪で総会を開催してるのを知りました。早速、恩師・バレエ部顧問の柏原先生に相談しました。即、当時の横山亭会長(14期)に連絡を取って頂き参加となりました。翌年は川本陽子さん(18期)から受け付けのお手伝いと、講演者・成戸昌信さん(18期)に花束を渡してほしいとの事で、引き受けしました。その又翌年には鈴木祥生さん(現・副会長)と一緒に司会の依頼。なんだか、ドンドン関西耐久会に入り込んでいつて様な心持ちでした。平成29年(2017)には、地引民子さん(17期)が会長就任となり、幹事長交代の依頼がありました。それは重すぎと考え、一旦お断りしましたが、役員一同からのご期待に添える様に頑張ろうと思ひ、幹事長として現在にいたっています。

耐久高校の使命

和歌山耐久会 西川 博(高26期)

耐久高校を卒業して47年が経ちました。今は和歌山市に住んでいます。時折見る母校はとても懐かし、楽しかった高校時代を思い出させます。

そんな大切な母校も、今の「県立高校の再編整備

計画」に全く無縁ではないと聞いています。少子化の影響や、学区制の撤廃などにより、定員割れしている高校も少なからず存在し、もし生徒が集まらなければクラス削減、または廃止・統合の可能性も

関西に。神戸の事は和歌山に向けて発信しています。皆様に楽しんで頂けたらと思っています。フェイスブックを始めた頃は、年齢が近い人と友達になったのですが、現在は10期〜52期までの方にお友達になって頂いています。丁度、私は31期で真ん中の位置に居ます。年齢幅は30代から80代までに至ります。これも歴史ある耐久高校と、創始者濱口梧陵翁のおかげと感謝しています。今後も関西耐久会関係はもちろん、その他いろんな事を発信していきたいと思っています。フェイスブックで友達申請をして頂ければ幸いです。

これからも濱口梧陵翁への感謝の気持ちを忘れず、繋がりと絆を大切にしていきます。

あるようです。さらに中学入試の日程が大阪と重なっている事や、大阪との授業料負担額の違いなどにより、県外から和歌山の私立中高に通う生徒が減少しています。その結果、たとえ耐久高校の通学圏内に住んでいても、和歌山市に通学する生徒が年々増え、今や高校1校程度の人数になっています。

あるようです。さらに中学入試の日程が大阪と重なっている事や、大阪との授業料負担額の違いなどにより、県外から和歌山の私立中高に通う生徒が減少しています。その結果、たとえ耐久高校の通学圏内に住んでいても、和歌山市に通学する生徒が年々増え、今や高校1校程度の人数になっています。

ペットと泊まるログハウスの宿
パートナーズハウスゆあざ
横山 享
(高14期)
湯浅町山田山・TEL・FAX 0737-65-3411
URL: http://www.partnershouse.jp

総合ビルメンテナンス・特定人材派遣
(株)ウイ・キャン・コーポレーション
取締役会長 岡 伸彦(高14期)
代表取締役 岡 勇作(高19期)
大阪市旭区中宮4丁目14番9号
TEL 06-6954-0346
FAX 06-6954-0577

小畑産業株式会社

代表取締役 小畑 英三(高18期)
〒640-8033 和歌山市本町3丁目18番地
TEL 073-423-4148 FAX 073-431-4505
ei-kobata@kbt.jp

心の健康相談・更年期の健康相談

神人クリニック

院長 神人 勉(高18期)
〒732-0053 広島市東区若草町18-46
TEL 082-261-0600

メールアドレス shirai-t002@wakayama-c.ed.jp

そんな状況の中で、生徒の確保と、授業のレベル向上に必死で立ち向かっておられる母校の先生方の苦勞は並大抵ではないと思います。

一方、実社会に於いても、様々な問題が山積してあります。地元の経済や人口流出だけでなく、国内に於いては、震災からの復興、膨大な赤字国債、近隣諸国との諸問題、安全保障、そしてコロナ渦まで。

どれも従来の手法では解決が難しい問題ばかりです。そんな難問を解決するために、「論理的解決能力」をもった優秀なリーダーを、ひとりでも多く輩出することは、地域屈指の伝統校である耐久の使命ではないでしょうか。

卒業生として、母校を心配すると同時に、濱口翁の創設した耐久社の「利他の精神」と「伝統」は、どうしても未来に引き継がなければならないかもしれません。

母校を守るといふ難題を、母校の先生方のみに託すのではなく、私たち卒業生も知恵を出し合うべきです。卒業生の持つ情報や経験が、生徒の学習意欲や「夢・志」を育む事に繋がるかも知れません。

私の原点

有田耐久会副会長 三角 治 (高25期)

思い起こせば、もう半世紀も前のことです。信じられないほどの年月が経ちました。50年前の私は人生の中で2番目に楽しい時を『耐久高校』で送っていたのかもしれない。2番目というのは、これから先、ひょっとするともっと楽しい事があるかも…、という希望を込めてですが！

1970年春、私は耐久高校の門をくぐりました。時あたかも大阪万博が開催され、日本の経済力が更に大きくなった年でした。坊主頭から長髪へ、吉備町から湯浅町へ、これまでの枠から抜け出し、周りを見て

思い起こせば、もう半世紀も前のことです。信じられないほどの年月が経ちました。50年前の私は人生の中で2番目に楽しい時を『耐久高校』で送っていたのかもしれない。2番目というのは、これから先、ひょっとするともっと楽しい事があるかも…、という希望を込めてですが！

その新しい環境は私に新しい力を与えてくれたのかもしれません。自分で言うのも恥ずかしいですが、積極性が培われたのもこの時期で、今までとは違う人々の中という環境下で、新たな自分に出会うことが出来たのかもしれない。ひよんなきっかけで入った新聞部、部室は正に根城のような存在で、ここを舞台に新

たな経験と知識も得る事が出来たように思います。当時の顧問、松宮先生には生活指導も含め(?)大変お世話になりましたし、顧問の藪添先生とは今もなお深いご縁を頂いている事も感謝に堪えないところで、部室には『低空飛行』と名付けられた日記帳のような大学ノートが何冊もあり、これは脈々と先輩達から引き継がれたものでした。部員一同、青春の思いの丈をこれに記し、時には数頁に及ぶ青春の記がありました。今読み直すときつと恥ずかしいと思います。が、

かもしれない。3年生の時は創立120周年、これも印象深い事でした。そして卒業後PTA会長として耐久高校に関わらせて頂き創立150周年も経験させてもらいました。そして、今、同窓会役員として170周年に関われるという不思議なご縁が続いています。私と耐久…、それはまさしく深い『縁(えにし)』

夏の新宿の夜空に

有田耐久会会長 和泉 保廣 (高22期)

「在京耐久会」をご存じでしょうか？耐久高校を卒業し、首都圏の大学への進学や就職された人たちの親睦会とでもいうものでしょうか。年に一度、集まりました。ふるさと有田を離れ、西も東も分からない見知らぬ地でホームシックになる中、母校の同級生に会える日を楽しみにしたものです。

会場は赤坂見附の都道府県会館。いつも50人近く集まりました。遠く山梨県からの人もいました。その時、来賓でお越しいただいたのが、当時、外務事務次官の法眼晋作さん(旧制中学校昭和2年卒 湯浅町出身)でした。このような人物をお願いできるのは東京なら



で結ばれているのだと、勝手に思っております。耐久高校に栄冠あれ！

各種印刷・紙器・果実包装紙

辻本印刷所

〒649-0303 和歌山県有田市新堂208-1
TEL (0737) 82-4444・82-5400
FAX (0737) 83-6006

田辺法律事務所

弁護士 田辺 善彦 (高14期)

〒640-8144 和歌山県四番丁26番地の2
TEL 073-431-2801
FAX 073-433-2299

THE THIRD CAFE

(サードカフェ) 三角 治 (高25期)

〒643-0801 有田郡有田川町徳田183-16
OPEN: 金・土・日曜日 10:00~17:00 (LO16:30)
TEL: 0737-22-3874

SHIMODE DENTAL CLINIC

医療法人 わかしお会

下出 歯科

下出 優 (高・理数2期・S48卒)

下出 輝 (高54期)

広川町広292-1
TEL (0737) 63-6482

◆ 地元、有田耐久会にご入会を！ (お問い合わせは事務局 0737-62-4148)

部活OB・OGたちの絆

茶華道部の巻

本校では茶道部と華道部が合併し、現在は茶華道部として3年生5名、1年生2名の合計7名で活動しています。部員は日本の伝統文化である茶道と華道の両方を習うことができます。

茶道のお稽古は週3回で、毎週金曜日には表千家の堀端裕喜先生に指導に来て頂いています。茶道は覚えることが多く難しいイメージがあるかもしれませんが、先生が一つひとつの動作を丁寧に教えて下さるおかげで、初心者でスタートする生徒ばかりでも、とても美しいお手前ができるようになります。美しい立ち振る舞いや美しい所作を身につける生徒に毎年感動します。茶道を通じて身につけたこれらのことは、一生の財産になると思います。生徒たちは、動作



の順序、ものの正しい位置、細かい作法にはそれぞれ意味があることを知り、おもてなしの心を大切にしながら、お稽古に励んでいます。華道は蕉月流の小林真月先生に月1回ご指導頂いています。文化祭では自分で好きなお花を選んで、一人一人の作品を展示します。また、一昨年から部員の合作で一つの大きな作品を作り上げ、本校の正面玄関付近に展示することも恒例になってきました。

新型コロナウイルスの影響で、文化祭でのお茶会や京都への研修など、例年行われていた行事ができなくなっている昨今ですが、今自分たちにできることをし、日本の伝統文化を継承する意味でも、途絶えることなく活動が続けていきたいと考えています。

顧問 谷口友賀

世界的なパンデミックは収まらず、日本でもワクチン接種が始まったもののコロナ感染者は増え続けている。政府の「今さらやめられない、とにかくやる」、世論の「やればいいやん?」と半ば消極的な支持の中でオリンピックが開幕した。

今回は関心なく冷やかだった私も、いざテレビ中継が始まると柔道・卓球・水泳・ソフト・バレーなどの熱戦についていけず、夜更かししてしまっ。開催可否かの不安をよそに黙々と練習に励んだアスリート達の強い折れぬ心に声援を

結び

俳壇・歌壇

・螢火の宙に描く字を読んでみる

小畑英三(高18期)

・柿若葉洗濯日和のきのふけふ

大浦睦美(高28期)

・音もなくしおりのゆらぐ風鈴や

夏のおわりの法師蟬きく

楠本弘子(高女28期)

・孫らみな節目を越えてゆく四月

長のおみなは看護師デビュー

坂本康寛(高18期)

・ピカピカの詰襟を着て門くぐる

希望満ちたる背中頼もし

仁木 恵(高43期)

『編集後記』

数々の名場面と感動を与えてくれた東京五輪も、日本勢最多となる58個のメダルを獲得して幕を閉じました。その余韻に浸る間もなく、お盆前から停滞する前線の影響で、梅雨末期の様相を呈した長雨、大雨となり、九州や中国地方に大きな爪痕を残しました。

新型コロナウイルスも第5波が押し寄せ、新規感染者数が、全国で2万5千人を越えるような事態にもなっています。コロナの影響は会報にも及び、前号同様、今回も、各地区の同窓会の方々からご寄稿いただき、紙面づくりを行いました。

コロナ禍で、人と人との交流が制限され、「絆」が失われようとしている中で、投稿された方々の「生き方」や「考え方」「人となり」に触れ、同窓会員同士の強い繋がりを感ずることができました。大変うれしく思っています。有難うございました。

明るいニュースとしては、コロナに負けず、多くのクラブが活躍してくれていること、大変心強く思います。

また、耐久関連の書籍を数多く寄贈くださった西会長の母校への熱い思い、中教頭先生の定時制教育にかける意気込み、ひしひしと伝わってきました。

「讃えよ耐久 我らが母校」

これからもご支援のほど、よろしくお願いいたします。

